

三峰川のみらいに向けて
地域住民のあなたが
主役です。

三峰川みらい計画の実現に、あなたの参加を求めています。
これから私たちと共通の目標をもって“何か”をしてみたい
方は、下記の三峰川みらい事務局（TEL81-6415）か、最寄
りの元三峰川みらい会議メンバーまでご連絡下さい。元
みらい会議メンバーは、顔写真入りの名刺を持っています。
地域のみなさんの中で仲間を拡げるためにお声をかける
こともあるかと思いますが、よろしくお願ひします。

発行

三峰川みらい会議 三峰川みらい検討委員会

事務局

建設省中部地方建設局 天竜川上流工事事務所

〒399-4190 長野県駒ヶ根市上穂南7-10

TEL(0265)81-6415 調査課 FAX(0265)81-6421

みんなの三峰川を次世代に



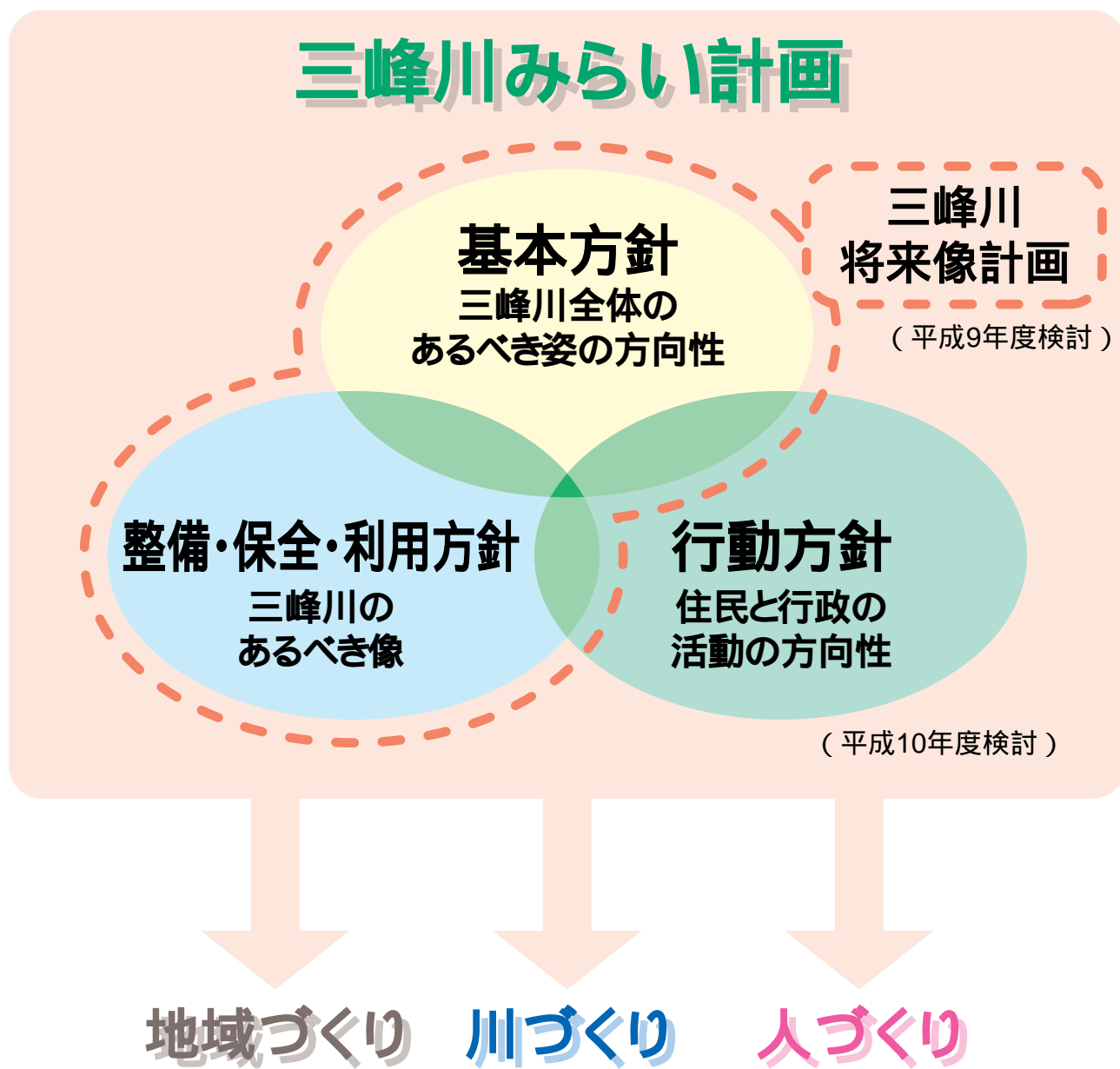
1 三峰川みらい計画とは？

自然豊かな三峰川 において、治水、自然環境の保全、河川空間の利用の相反する3つの課題をどのようにして調整し現実のものとしていくのか地域のみなさんの声を反映しながら、次世代に誇れる三峰川のみらい像を「三峰川将来像計画」として検討を進めてきました。

「三峰川将来像計画」では、三峰川のあるべき姿（みらい像）として「基本方針」、そして各エリアのあり方として「整備・保全・利用方針」を検討してきましたが、次世代に誇れる三峰川を実現化してい

くためには、地域のみなさんと流域の行政が連携した具体的な行動やしきみづくりが重要となります。このため、「基本方針」と「整備・保全・利用方針」から構成される「三峰川将来像計画」に、地域のみなさんと行政が連携した「行動方針」をつけ加えて「三峰川みらい計画」としました。

この三峰川みらい計画は、三峰川の川づくりを進めるだけでなく、流域市町村の地域づくりと三峰川が結びつける人と人とのつながり（人づくり）を拡げる役割も担っています。



三峰川みらい計画は、天竜川合流点から高速ダム直下までを対象としています。

三峰川みらい計画 基本方針 (三峰川のみらい像)

環境

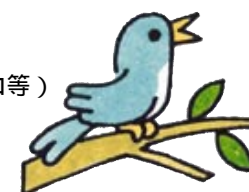
をテーマとした基本方針

瀬や淵のある水量豊かできれいな三峰川

- ・膝までつかって遊べるくらいの水量がある川
- ・“カジカ”が棲めるきれいな川
- ・湧き水を保全する
- ・“天竜差し”が棲める川
- ・豊かな水の流れにより瀬や淵のある川

川らしい植物・動物の息づかいが聞こえる三峰川

- ・多種多様な植物・動物がみられる川
- 魚(カジカ、ヤマトイワナ、サソリ等)
- 鳥(カワセミ、ヤマセミ等)
- 昆虫(カブトムシ、ザザムシ、トンボ等)
- 哺乳類(カワネズミ等)
- 両生類(カジカガエル等)
- 植物(カワラサイコ、カワラハハコ等)
- ・手つかずの自然がある川
- ・生物の生息空間を保全・創造する



2つのアルプスと田園や段丘崖の美しい自然景観が映える三峰川

- ・周囲の田園や段丘崖(グリーンベルト)景観を保全する
- ・上流の渓谷美の景観を保全する

植栽や住民協定などにより、良好な景観を創出する三峰川

- ・桜並木や低木の景観をつくる
- ・景観の住民協定によって良好な景観をつくる
- ・三峰川からみた街並みの創造



治水

をテーマとした基本方針

過去の災害の教訓を語り継ぐ三峰川

- ・沿川地域の歴史を感じられる川
- ・治水の歴史を後世に語り継ぐ野外歴史博物館
- ・水神様、サンヨリコヨリなど治水に関する歴史伝統文化の継承

安全で自然と調和した三峰川

- ・安全な堤防の整備
- ・安心して利用できる安定した河道
- ・適切に管理された河川内樹木
- ・治水に役立つ植生の回復と創造

利用

をテーマとした基本方針

川に遊び、川を知ることができる三峰川

- ・子供が川遊び、魚とりができる川
- ・流域の成り立ちが理解でき、自然観察が大いにできる川
- ・三峰川の様々な姿を誰にも教えることのできる、「三峰川の達人」を育む川
- ・みんなが遊び、学ぶことのできる河川空間の創造



自然を感じ、心やすらぐ愛ある三峰川

- ・そこにいるだけでくつろげる川
- ・食文化の原点を感じる川
- ・人々に愛される川

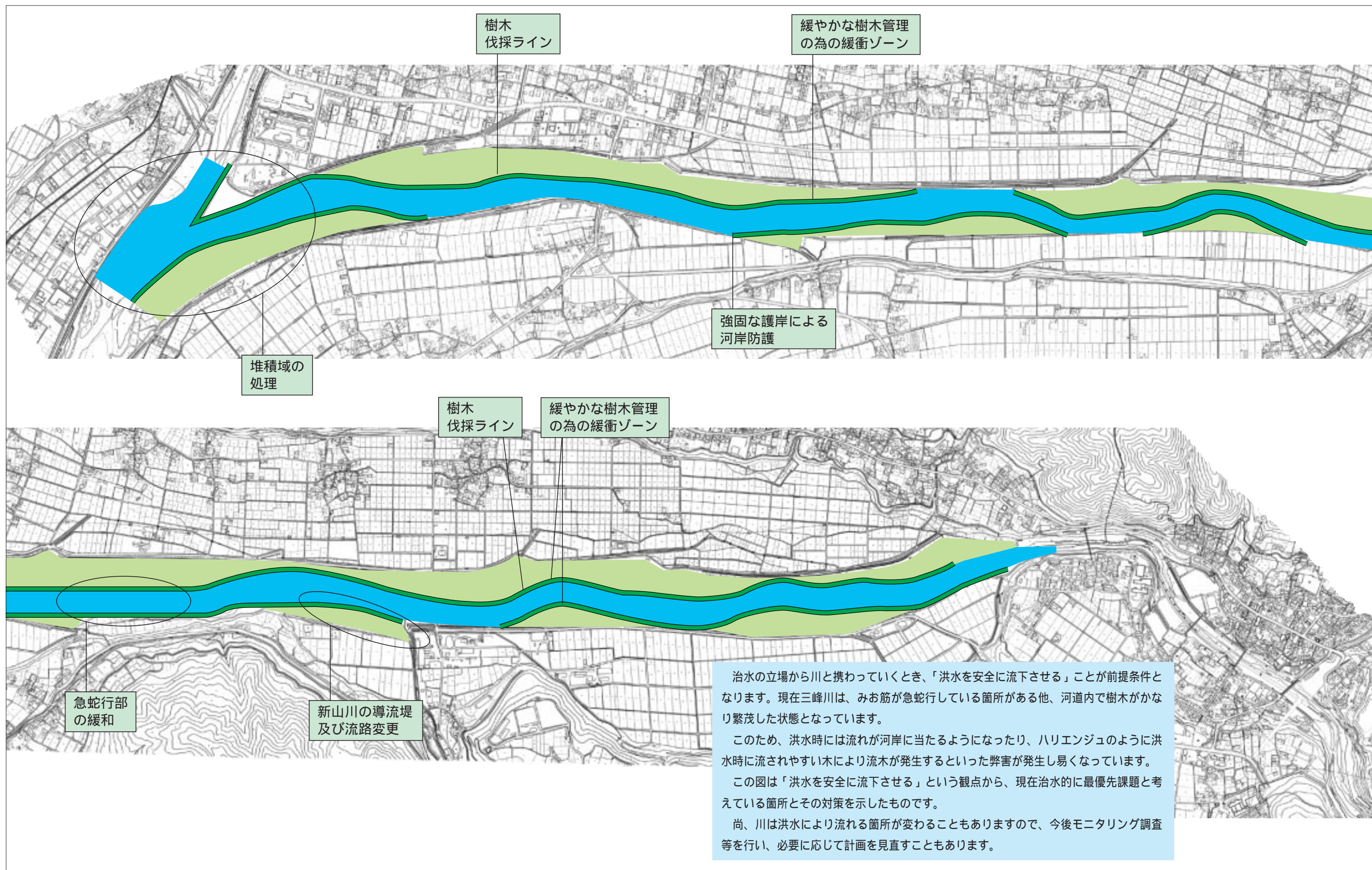


様々な交流を生み出す三峰川

- ・みんなが友達になれる川
- ・みんなが絆を深めあえる川
- ・全国に向けて情報発信する川
- ・みんなが利用できる空間のある川

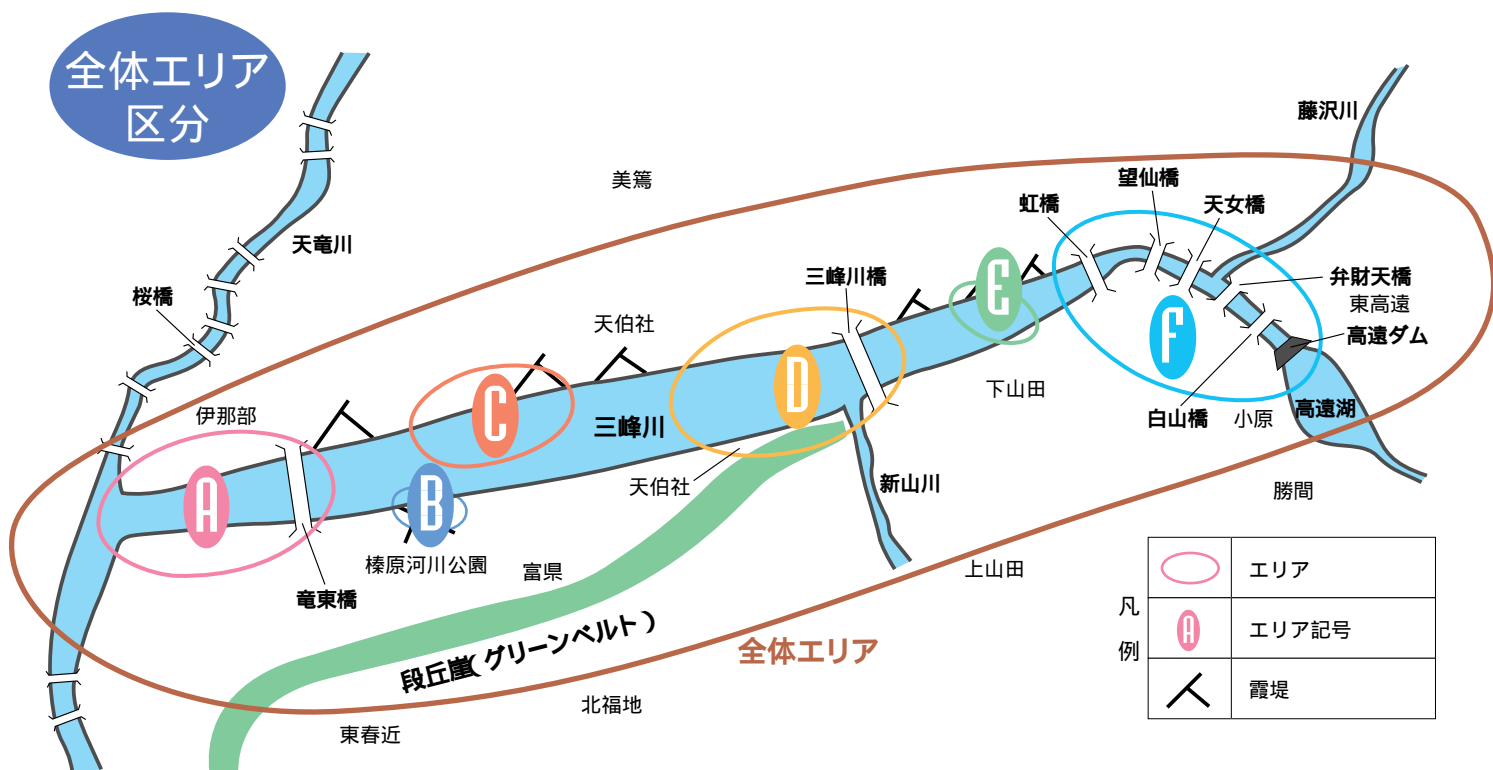
心を写す三峰川

- ・ゴミのない川
- ・川との親しみをみんなで守り育む三峰川
- ・みんなが安心して遊び・学べるよう、迷惑をかけない



3 全体及び各エリアごとの整備・保全・利用方針と方策案

三峰川の整備・保全・利用方針は、三峰川を“全体エリア”と“6つの特徴あるエリア”に分けて、そのエリアごとにみらいの姿を表現しています。各エリアの中では、いくつかの特徴あるブロックが含まれており、その特徴を生かした方策案も示しています。



三峰川の全体エリア

整備・保全・利用方針は

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1 三峰川が本来所有する自然環境(動植物、景観等)の回復及び保全をする | ・川らしさを回復するために水量を増大する
・河川のなかの樹木の管理 |
| 2 周辺の田園、段丘差、桜並木などの景観を保全、創出する | ・住民協定などによる三峰川周辺の景観の保全
・新たな桜並木の創出 |
| 3 治水の歴史と治水施設を保全する | ・治水工法を展示、紹介する三峰川そのものを野外歴史博物館(仮称)にする
・霞堤の水制の保全 |
| 4 美しい、ゴミのない三峰川とする | ・河川の一斉清掃
・河川を愛する意識を育てる
・アレチウリなどの帰化植物を排除する |
| 5 全川をつなぐネットワークを構築する | ・水辺に近づきやすい環境をつくる
・各エリアを結ぶ散策道の整備 |
| 6 川の楽しさ、恐ろしさを学ぶしくみづくりをする | ・三峰川を教える水先案内人の育成
・水辺が自然体験の場、遊びの場として活用されるようしくみづくり |

具体的な方策(案)としては

A エリア 三峰川全川を知る(入門)エリア

Aエリアの特徴

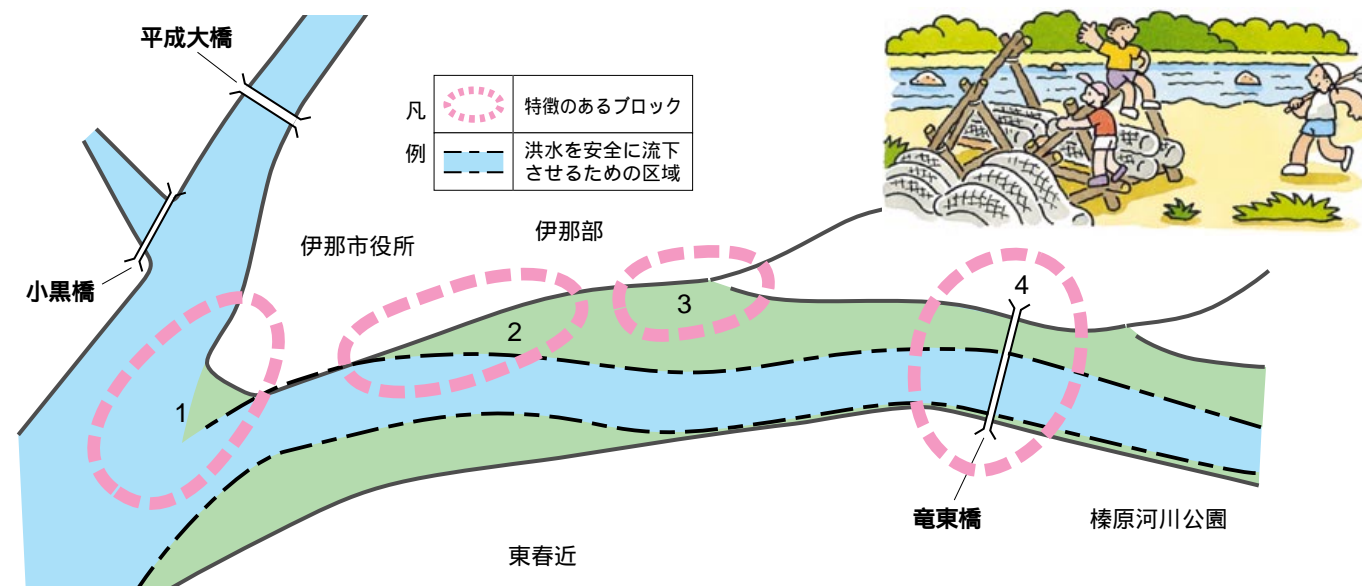
- 1 天竜川との合流点で、天竜川と三峰川の両方が眺められます。
- 2 河原が広がっていますが、昔は水たまりもありました。
- 3 マレットゴルフ場があり、河原に下りて川遊びをしている人がいます。
- 4 2つのアルプスがはえる竜東橋のたもとは、子供たちのよい遊び場となっています。

Aエリアの整備・保全・利用方針

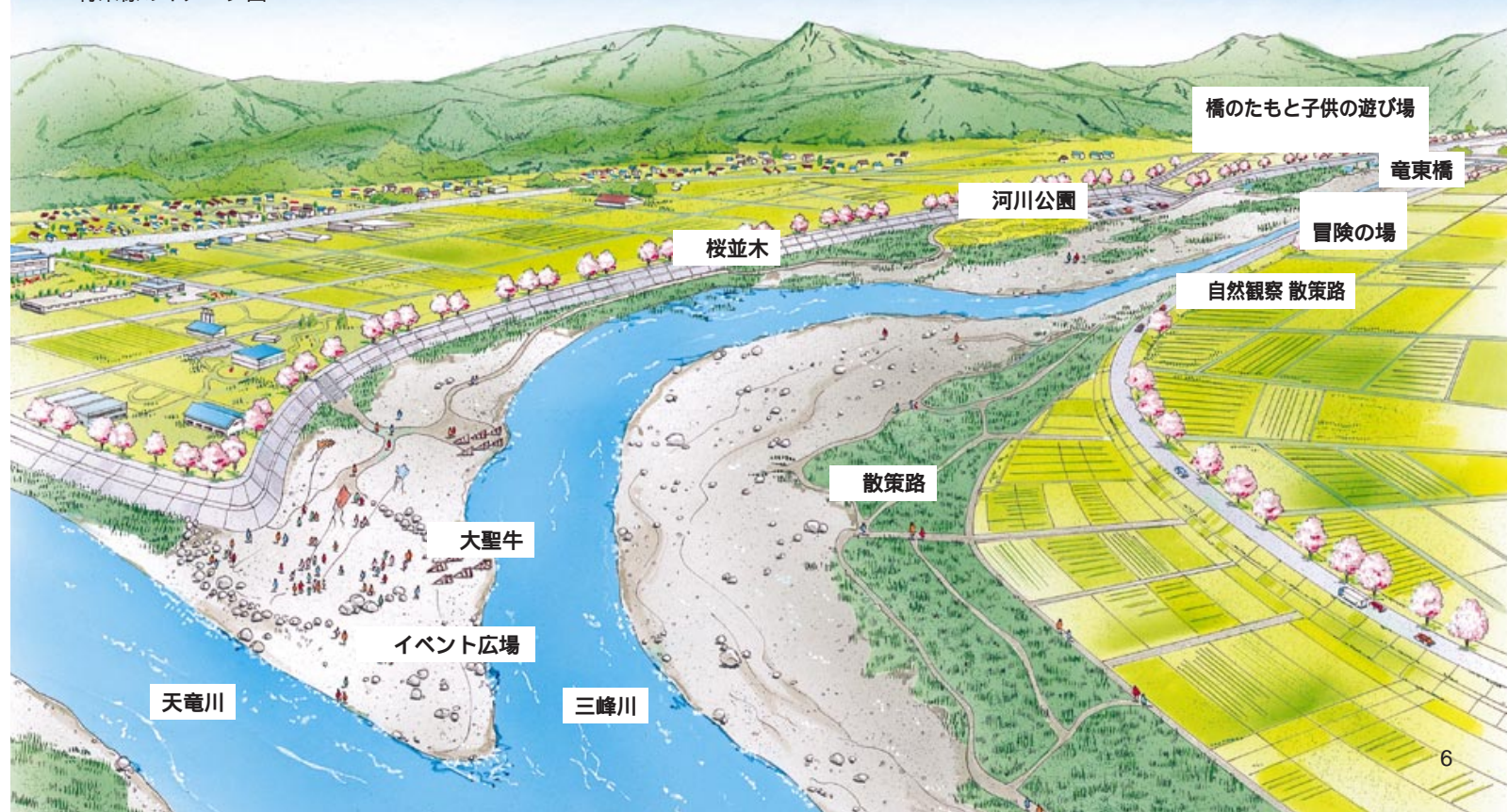
- ・三峰川と人との関わりの歴史を知る場
 - ・川を身近に感じる場
- とします。

具体的な方策として

- ・川ならではの治水公園の整備
 - ・古来からの治水工法の展示と案内
 - ・三峰川の情報発信基地
 - ・合流点付近をぐるりと回れる道の整備
- などが考えられます。



将来像のイメージ図



B エリア 水とのふれあい、人とのふれあいができるエリア

Bエリアの特徴

5 榛原河川公園は、子供から大人まで遊べる人気の場所です。

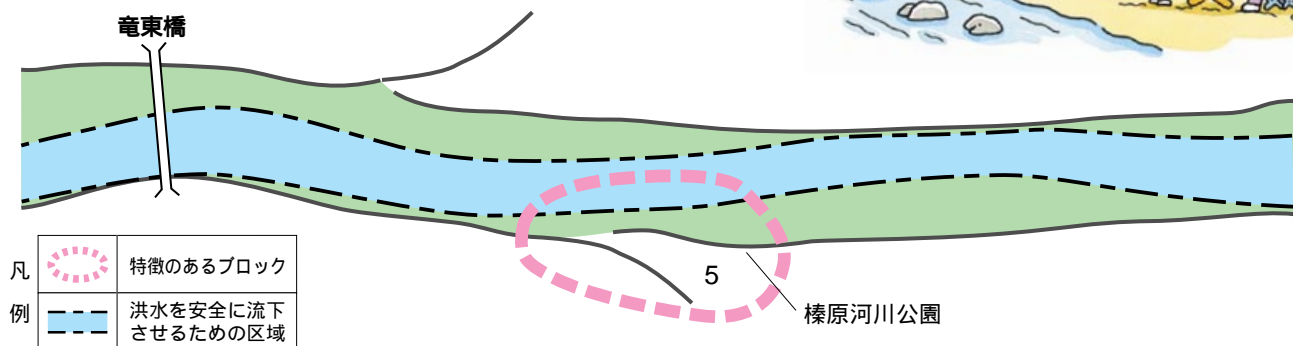
Bエリアの整備・保全・利用方針

・三峰川で遊び、学ぶ場
とします。

具体的な方策として

- ・榛原公園周辺の“遊び機能”の充実
- ・“水辺の楽校”、“川の達人”等のソフトの方策の導入場所
- ・キャンプを通じての交流場所
- ・南アルプスの岩石を学べる場所

などが考えられます。



C エリア かつての三峰川景観の復活エリア

Cエリアの特徴

6 古い桜並木が残る堤防には水神様がまつられています。
7 河原には湧水が所々にみられます。

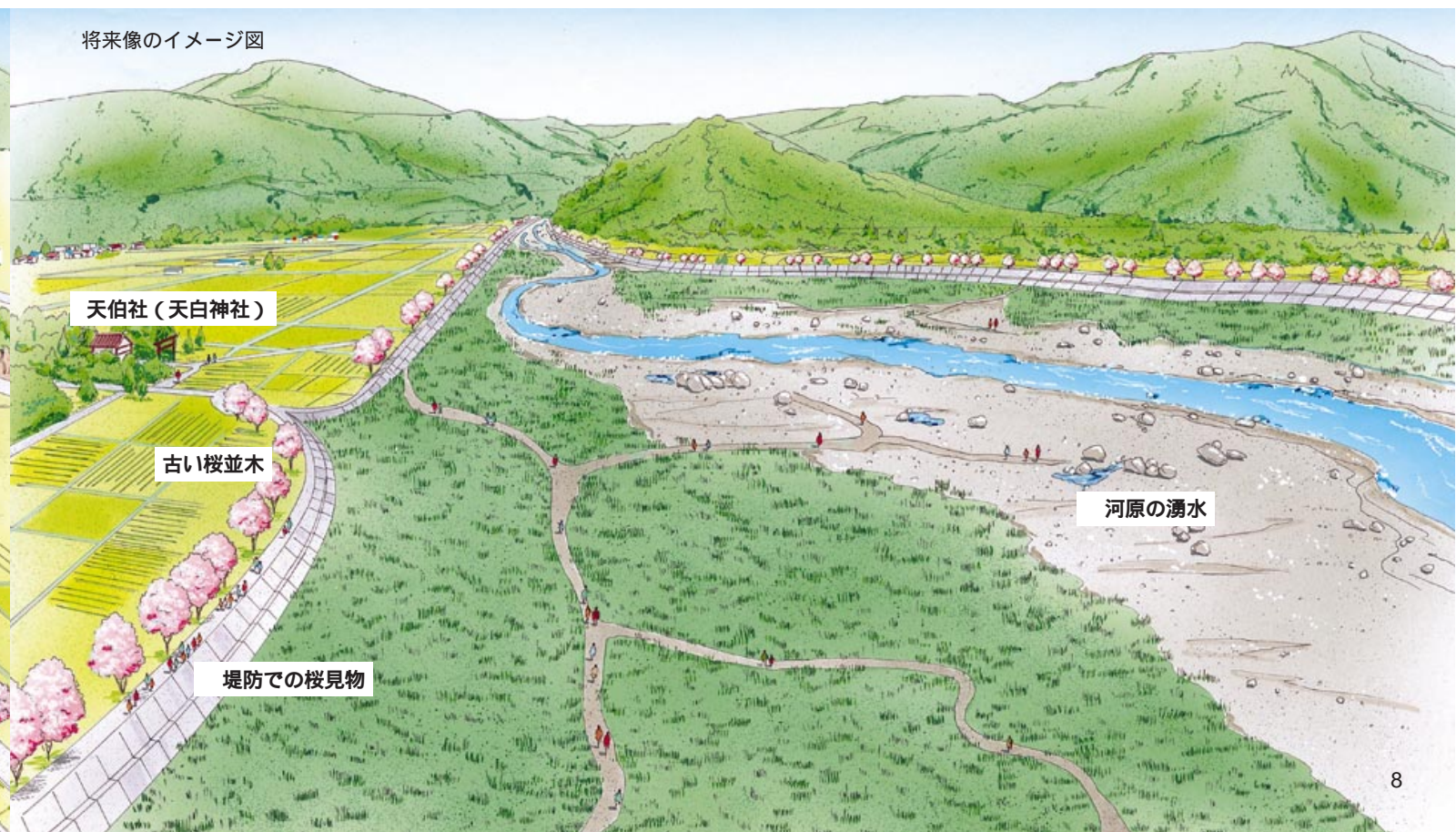
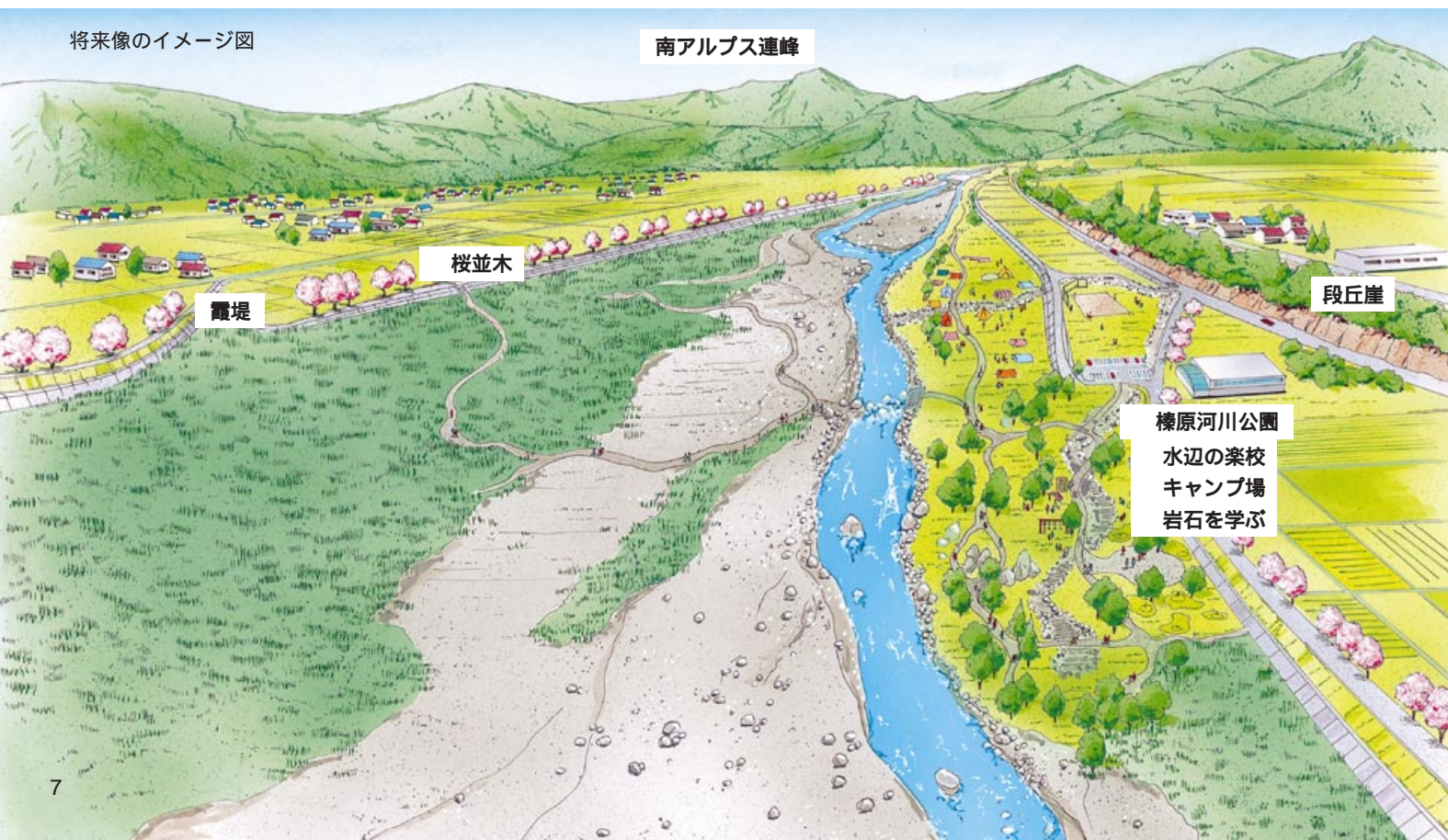
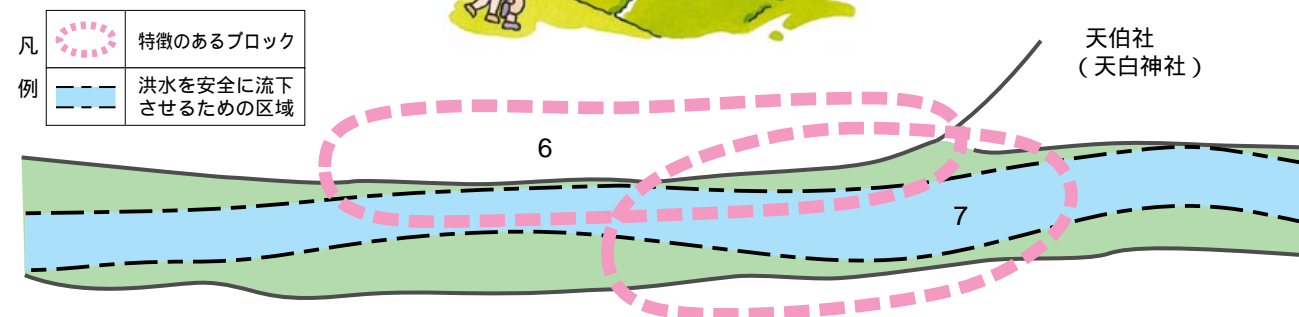
Cエリアの整備・保全・利用方針

・昔からの三峰川の景観を楽しむ場
とします。

具体的な方策として

- ・桜並木の保全、もしくは積極的な植樹
- ・湧水周辺的环境保全

などが考えられます。



D エリア 三峰川のエキスを満喫できるエリア(上級者コース)

Dエリアの特徴

- 8 ホタルが観られる場所があります。
- 9 左岸・右岸ともに多様な動植物がみられ、三峰川らしさを最も感じられる場所です。
- 10 天伯社周辺の森と川が調和した景観をみせており、動植物が豊かにいきづいています。
- 11 2つのアルプスを眺める絶好の場所で三峰川橋のたもとからは川面にも近づくことができます。

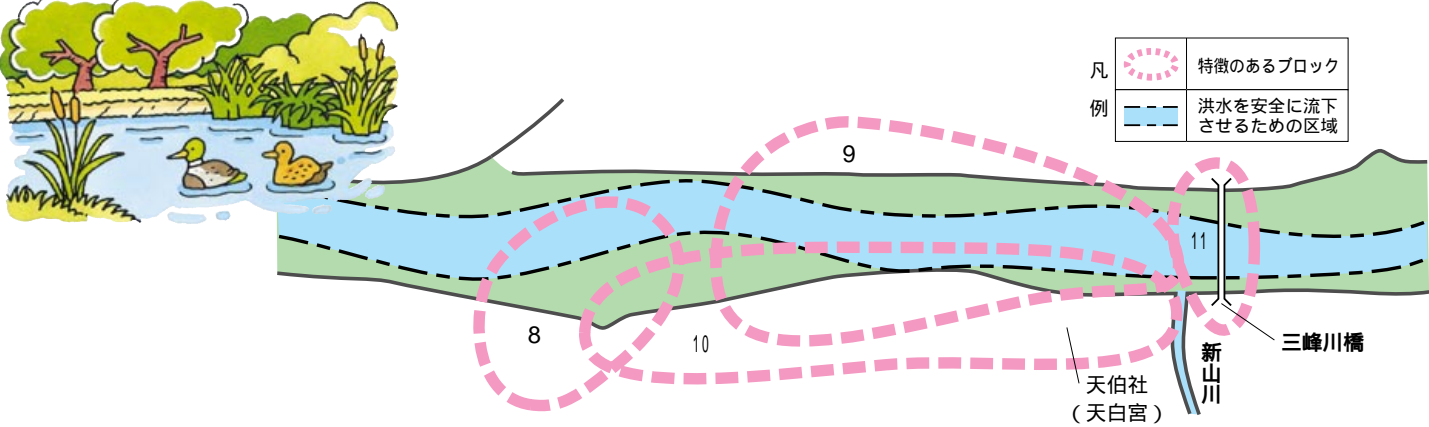
Dエリアの整備・保全・利用方針

- ・三峰川の多様な自然環境(動植物・景観等)を体感する場
- ・心の安らぎを感じる場とします。

具体的な方策として

- ・手付かずの自然環境の保全
- ・森と川とのつながりを保全
- ・ゆるやかな河川環境の管理
- ・ビオトープの保全と創出(ビオトープとは、生物が自然の状態です。)

などが考えられます。



E エリア 人の利用と自然の共生を図るエリア

Eエリアの特徴

- 12 河川固有の植物種や、樹林が安定して生えています。
- 13 高遠町の駐車場として利用されている広場があります。

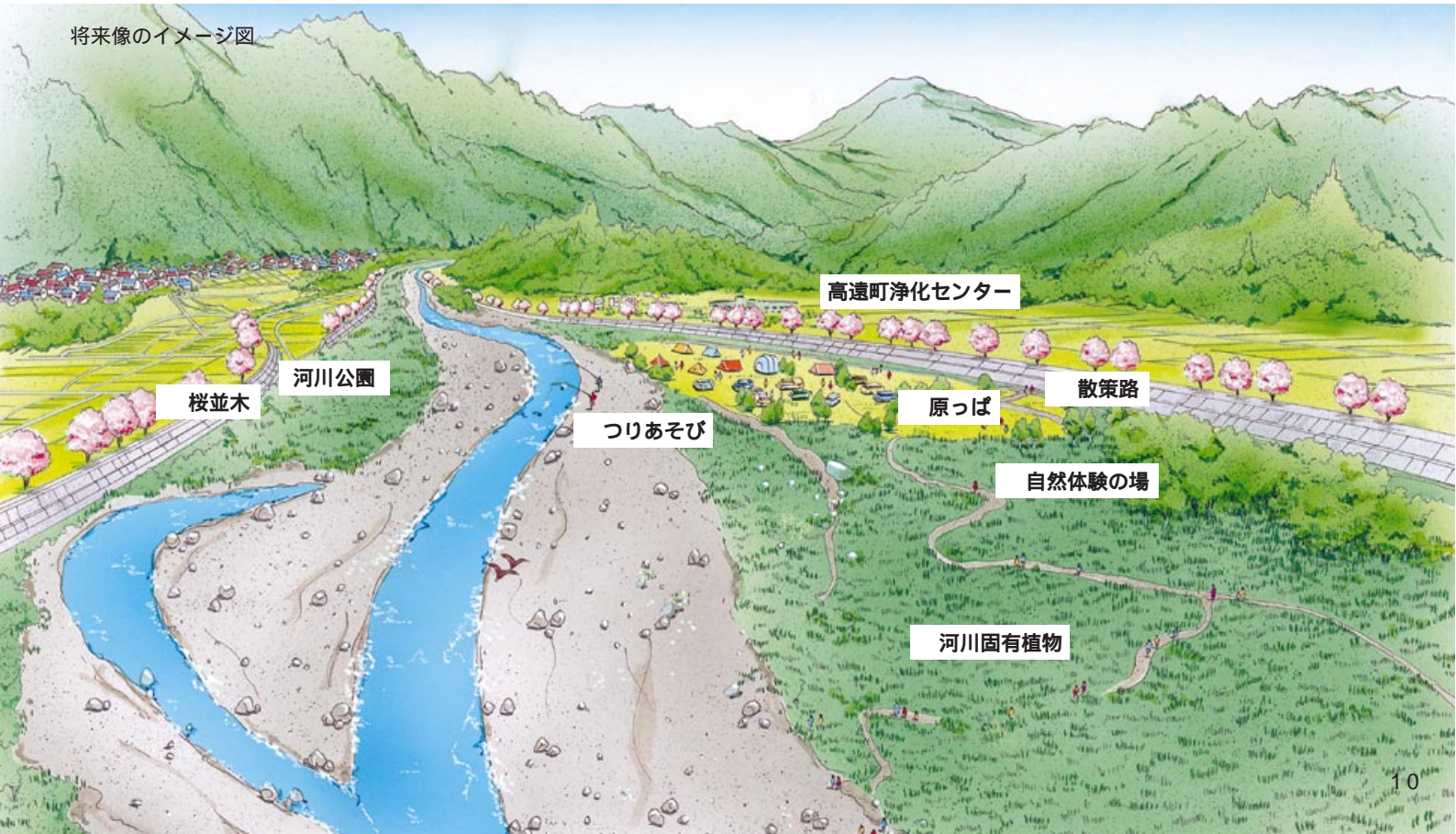
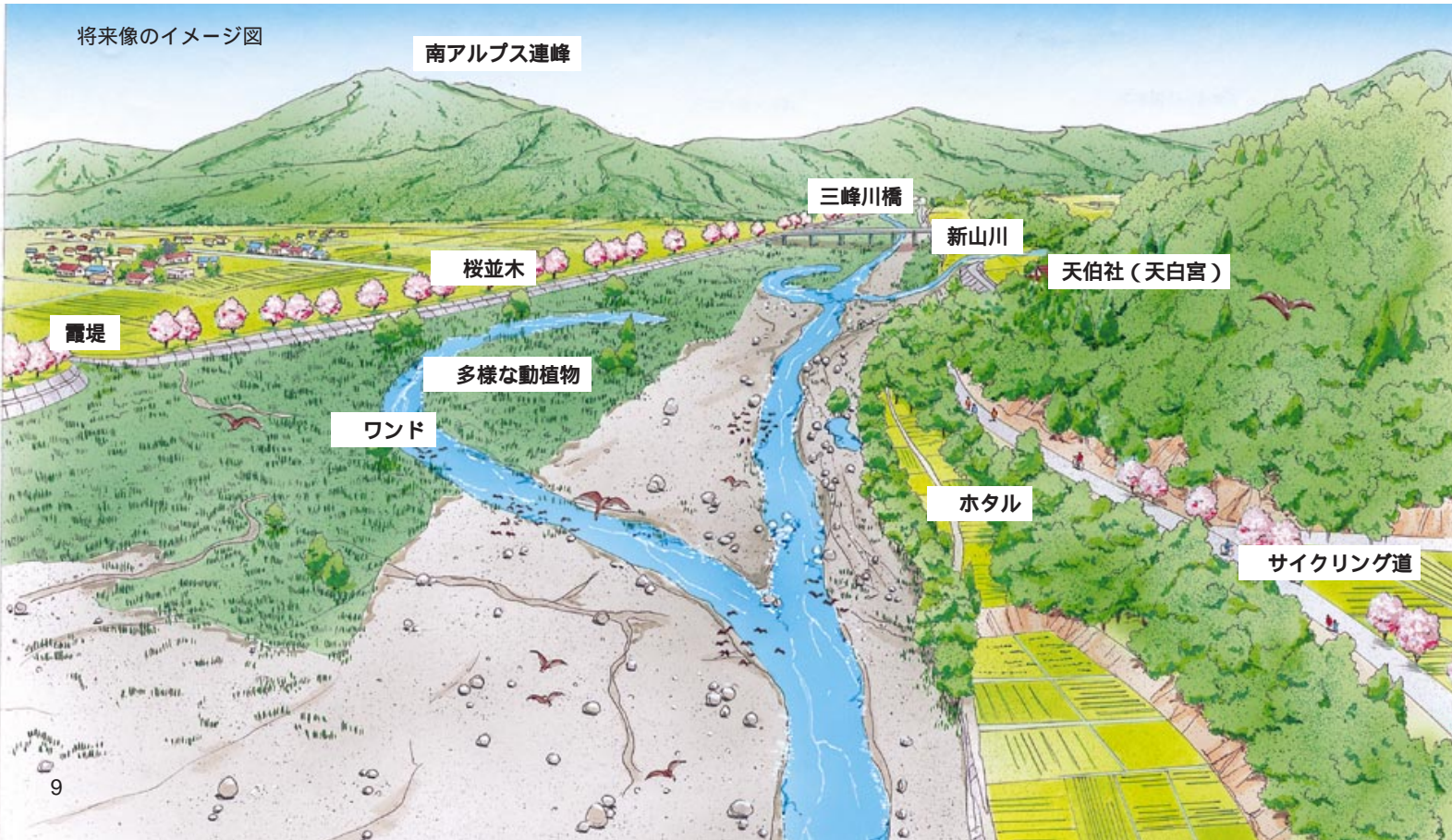
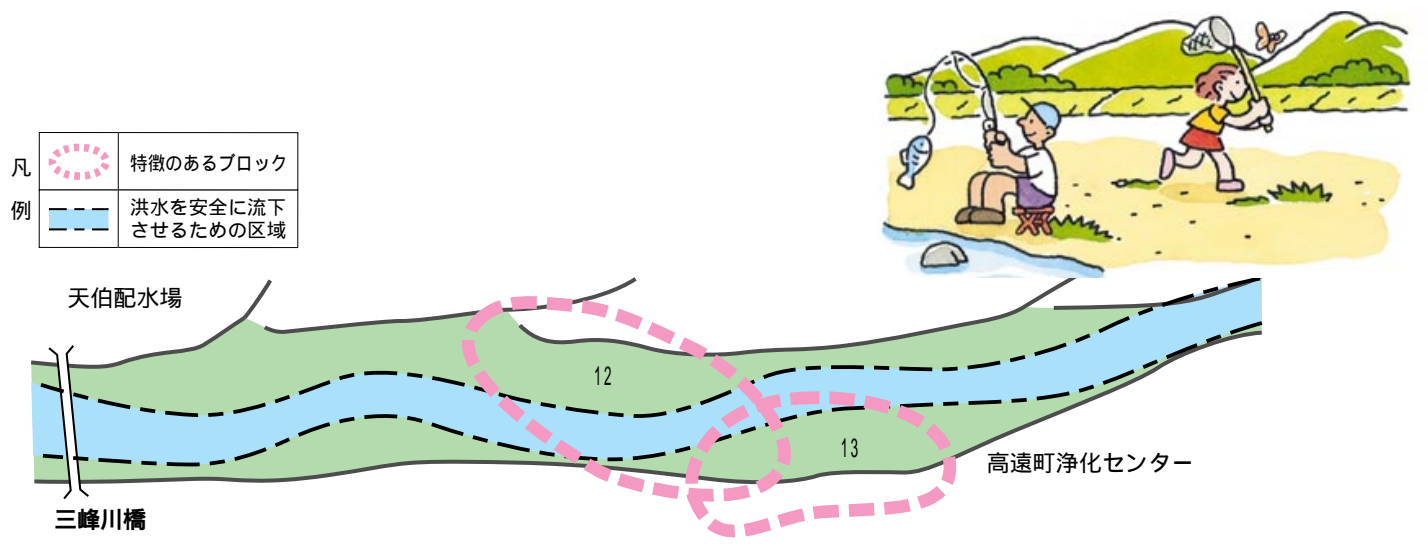
Eエリアの整備・保全・利用方針

- ・河川敷を多目的に人が利用する場
- ・河川固有の植生を保全する場とします。

具体的な方策として

- ・人が入れる空間と入れない空間を区別
- 13 ブロックは、
- ・川らしい原っぱとしての整備
- ・チガヤ等を使った広場の緑化
- ・自然を体験する場

などが考えられます。



Fエリア 渓谷の自然を保全し、自然と水を回復させるエリア

Fエリアの特徴

- 14 自然観察の場として、周辺の小学生などが利用しています。
- 15 虹橋付近では、渓谷の中からアルプスが眺められ、鳥の声や瀬音が聞こえてきます。
- 16 望仙橋、天女橋、弁財天橋の3つの橋があり、弁天岩や弁財天河原などがあります。
- 17 両岸にせまる岩や斜面林などが、美しい渓谷の風景を形づくっています。

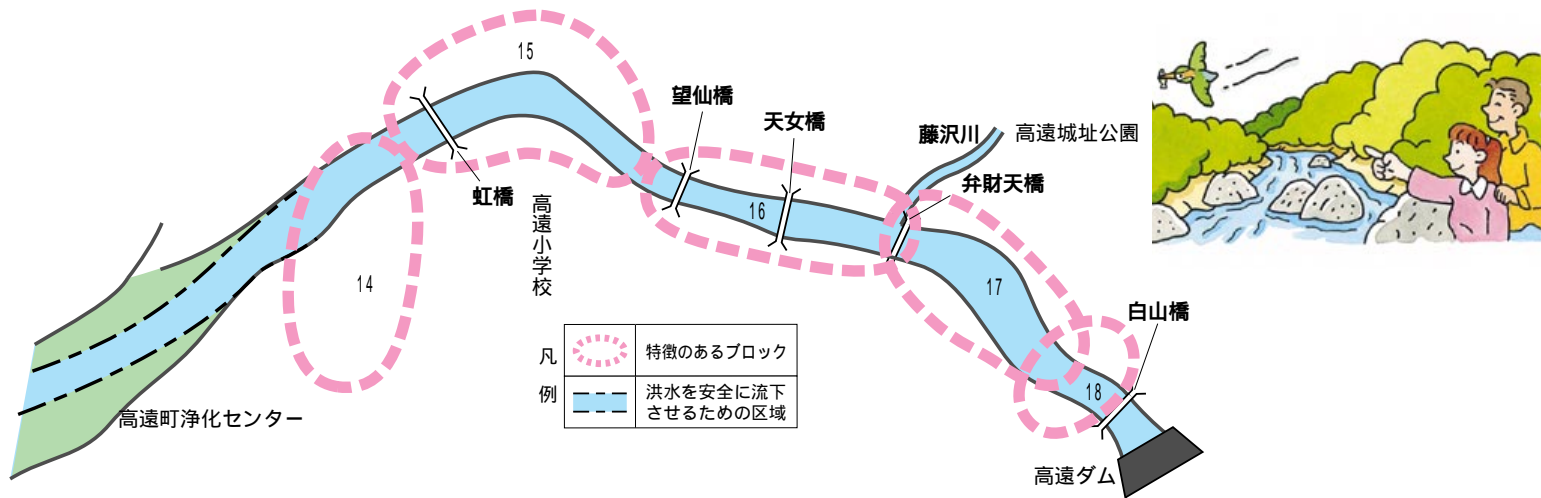
Fエリアの整備・保全・利用方針

- ・子供達の冒険心を誘う場
- ・町なかを流れる三峰川を身近に感じる場とします。

具体的な方策として

- ・高遠ダム直下～藤沢川合流地点区間の流水確保
- ・子供達が遊べる場の確保
- ・渓谷美を楽しむための散策路や野鳥観察小屋の設置
- ・町並みの創造

などが考えられます。



将来像のイメージ図



4 三峰川みらい計画行動方針

三峰川みらい計画を実現化していくためには、地域のみなさんと行政が、それぞれの立場で具体的に行動していく必要があります。その際には、以下に示す行動方針に沿って、地域のみなさんと行政が連携した具体的な活動が重要となります。

行動方針

住民が主体となって
行う行動

行政機関が主体となって
行う行動

行こう(Visit!) 三峰川へもっともっと行こう

- ・様々なイベントを開き、三峰川にまず来てもらおう。
- ・こどもたちをもっと三峰川に連れて行こう。
- ・三峰川の水、緑、動植物に会いにいこう。

知ろう(Find!) 三峰川をもっともっと知ろう

- ・三峰川の自然を体験してみよう。
- ・三峰川の姿を様々な角度から発見しよう。
- ・三峰川の過去の歴史を通じて、人と川との関わり方を知ろう。

楽しもう(Enjoy!) 三峰川をもっともっと楽しもう

- ・三峰川の恵を楽しみながら享受できる場や機会を増やそう。
- ・様々なイベントに参加したり、遊びに行くことで、三峰川を満喫しよう。

愛そう(Love!) 三峰川をもっともっと愛そう

- ・自然環境の保全や河川環境の管理をしていこう。
- ・三峰川で心やすらぐひとときを過ごそう。
- ・三峰川のことを語り継ぐ人になろう。

広げよう(Network!) 三峰川の仲間を広げよう

- ・みらい会議のメンバーが核となって、川と生活が結びつく活動を地域に広げていこう。
- ・他の河川の活動グループと交流しよう。
- ・三峰川に関する情報を地域内・外に発信しよう。

連携

情報の提供 河川情報、自然環境情報等の提供をしていきます。

- ・様々な情報を提供します。
- ・情報については、分かりやすい形に工夫して提供します。
- ・川の楽しみ方(遊び方)の情報も発信します。

住民の意向把握 住民の思いや考えを大切にしていきます。

- ・地域住民と同じ視点をもって計画立案していきます。
- ・常に地域住民の川に対する意向を把握していきます。
- ・住民が参加できる計画立案の機会を設けていきます。

住民活動の支援 住民活動が運営しやすい基盤をつくっていきます。

- ・住民活動に対して支援していきます。
- ・活動リーダー(インストラクター、達人、案内人等)の養成と確保を支援していきます。

流域行政の連携 流域行政が連携をしていきます。

- ・行政・活動団体・個人の活動ネットワークづくりをしていきます。
- ・流域市町村の連携によるイベントや施策を展開していきます。

施設の整備 住民の声を反映した施設整備をしていきます。

- ・住民の声を反映した施設等を整備していきます。
- ・住民の活動を支える施設等を整備していきます。

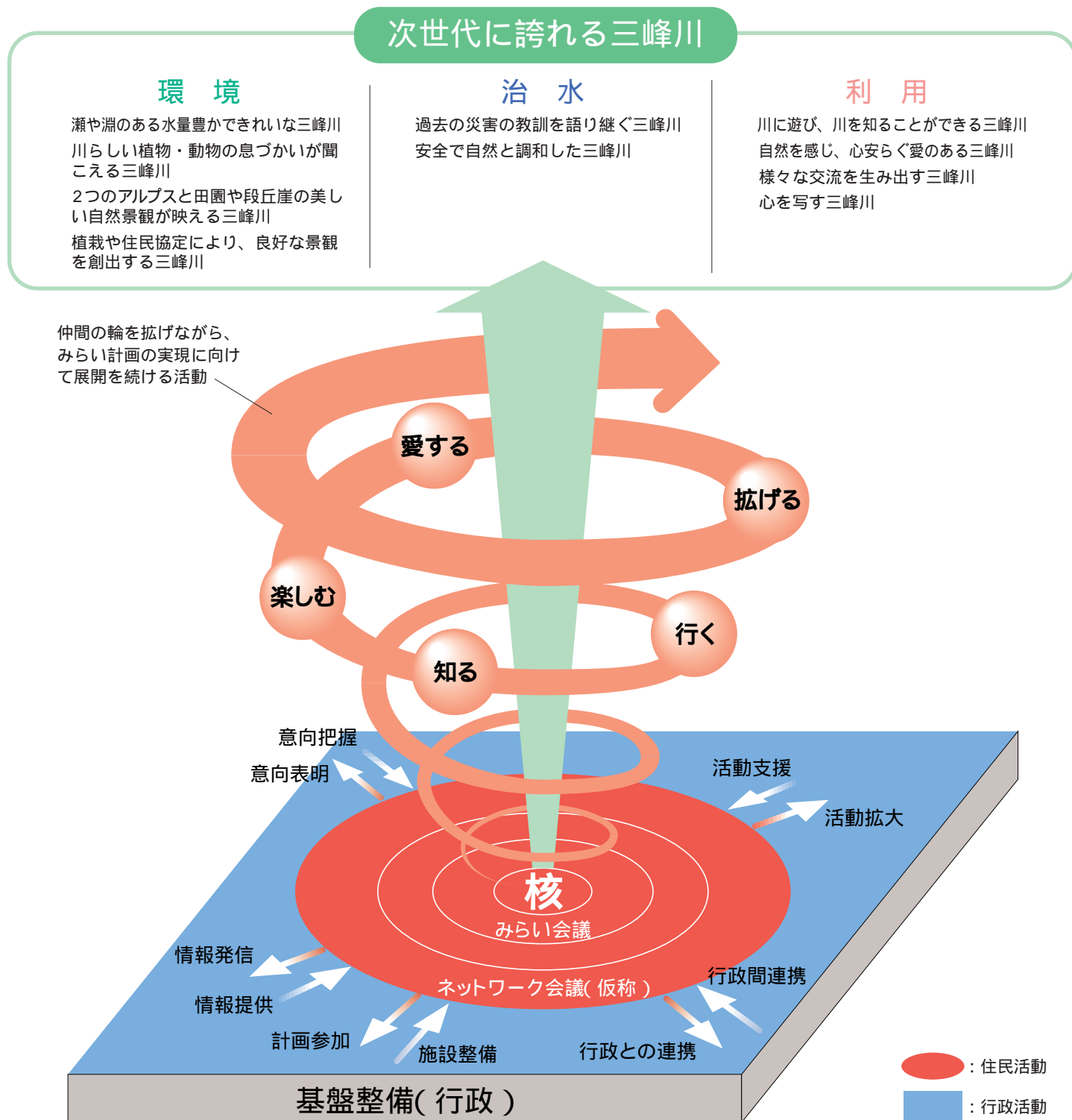
5 実現化に向けての展開

地域みなさんと行政が「三峰川ネットワーク会議」(仮称)と連携して展開する様子を模式的に示したのが下の図です。

三峰川みらい会議を運営してきたメンバーが核となり、行動方針の「行こう」「知ろう」「楽しもう」「愛そう」「広げよう」に関わる活動を進めていきます。今後は、徐々に仲間の輪(らせんの半径)を広げ、みらい計画の実現に向けて大きな活動に展開していきます。仲間の輪

は、広範な地域を巻き込みながら、「三峰川ネットワーク会議」(仮称)といった名称で呼ばれる連携した組織へと進めていきます。

また、行政は、「情報の提供」「住民の意向把握」「住民活動の支援」「流域行政の連携」「施設の整備」の行動方針に沿って基礎的な整備(基盤整備)を進めていきます。



6 みらい計画の実現化に向けての活動組織展開

「みらい計画」を実現していくためには、「三峰川みらい会議」のような自主的住民グループの活動が重要となります。今後、新たな住民の方の参加も含め、下図のような活動が考えられます。

